

2024

4-5月

# はしかけニューズレター

2024年度 第1号 通巻176号

2024年(令和6年)4月1日発行

編集・発行: 滋賀県立琵琶湖博物館 交流担当 (はしかけ担当職員: 鈴木)

住所: 〒525-0001 滋賀県草津市下物町1091 電話: 077-568-4811 ファックス: 077-568-4850

電子メール: hashi-adm@biwahaku.jp 琵琶湖博物館ホームページ: <https://www.biwahaku.jp>

## ～ 目 次 ～

### 1. 事務局からのお知らせ

### 2. はしかけグループの活動報告と活動予定

- (1) うおの会 (2) 近江 巡礼の歴史勉強会 (3) 淡海スケッチの会
- (4) 近江はたおり探検隊 (5) 大津の岩石調査隊 (6) 温故写新
- (7) 暮らしをつづる会 (8) 古琵琶湖発掘調査隊 (9) ザ! ディスカバはしかけ
- (10) 里山の会 (11) 植物観察の会 (12) たんさいぼうの会 (13) 田んぼの生きもの調査グループ
- (14) タンポポ調査はしかけ (15) ちっちゃなこどもの自然あそび(ちこあそ) (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会
- (17) びわたん (18) ほねほねくらぶ (19) 緑のくすり箱 (20) 虫架け (21) 森人 (22) 琵琶湖梁山泊
- (23) サロン de 湖流 (24) 水と暮らし研究会 (25) 海浜植物守りたい

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(4月～5月)

### 4. 生活実験工房からのお知らせ

### 5. その他の事項

会員数 … 393人  
 グループ数 25グループ  
 (2024年 3月31日現在)

## 1. 事務局からのお知らせ

新年度を迎え、環境が大きく変わる方もいる時期かと思えます。この春は天気と気温が目まぐるしく変わり、うかつに衣替えもできない状況でした。変化がある場合も、継続される場合も、無理の無い範囲で過ごしていきたいものです。さて、事務局よりお知らせがあります。3点についてご報告いたします。

### ■はしかけ制度会員登録の更新手続きについて

年度末に更新手続きをお忘れで、2024年度も継続してはしかけ活動をされる方は、更新手続きが必要です。更新受付票の返送とボランティア活動保険への加入をお願い致します。ボランティア活動保険の加入については、4月以降に加入される場合は、博物館での加入手続き代行は行っておりませんので、個人での加入手続きをお願いします。お近く(市・町・県)の社会福祉協議会にて、「ボランティア保険」の加入手続きを行ってください。その際、「主な活動内容」欄には「琵琶湖博物館はしかけ 観察会・課外活動」、「主な活動場所」欄には「琵琶湖博物館」とご記入ください(はしかけ以外の活動団体ですすでにボランティア保険に加入されている方は新たな加入手続きは不要です)。また、4月1日以降の更新手続きについては、手続き希望者が一定数まとまった段階で行いますので、更新受付票を送付頂いてから名札等をお送りするまで、1か月程度の期間が空くことがありますので、ご了承ください。

### ■2024年度 第1回はしかけ登録講座

2024年度第1回はしかけ登録講座を下記日程でオンラインにて開催予定です。お近くにはしかけに興味を持っている方がいらっしゃれば、お知らせ頂ければ幸いです。

日時:2024年4月28日(日)～2024年5月12日(日)のうち任意の2時間程度

(鈴木 隆仁)

### ■ギャラリー展「鉱物・化石展 2024・大地に夢を掘る」について

滋賀県やその周辺で活動する鉱物・化石等の愛好家が集結して、自ら展示を行う第5弾。今回は琵琶湖地域もしくはその関連地域で見つかった、すばらしい化石や鉱物の標本など、愛好家の方々が長年地元で調査・収集されてきた化石や鉱物を広く一般の皆様に公開するとともに、それらを通して滋賀県やその周りの地質や化石について学び、関心を高めてもらうことを目的としています。期間は2024年4月20日(土)～6月2日(日)の予定です。ぜひご覧ください。

(半田 直人)

## 2. はしかけグループの活動報告と活動予定



### (1) うおの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 32名】

グループ担当職員: 田畑 諒一、川瀬 成吾

#### 【活動報告】

■1月20日(日)勉強会「うおの会のこれまでの歩み、調査から分かったこと」

場所: 琵琶湖博物館 実習室2

参加者: 20名

うおの会のこれまでの歴史を振り返り、得られたデータをどのように活用、発表してきたかを私(中尾)がお話しました。

うおの会の結成は2000年の「はしかけ制度」発足と同時で、以降、定例調査、法竜川の調査、「琵琶湖お魚ネットワーク」活動などを展開するかたわら、学会発表や論文の公開、書籍や報告書の出版などを行ってきました。当日の参加者の中では、水戸さん、高田さんのお二人が発足当時から継続して参加されており、2000年代前半の活動の写真を見ながら「ハスを採って食べる会がとても楽しかった」「和邇川でトビに弁当を採られた」などのエピソードを披露いただきました。

うおの会のデータを元にした研究事例の紹介では、魚の分布が地理的特徴からいくつかのタイプに分けられることを示した「陸水学雑誌」の論文や、ブルーギルの生息しやすい環境の特徴を明らかにした「保全生態学研究」掲載論文などを紹介しました。うおの会のデータは滋賀県のレッドデータブックにも根拠資料として多数引用されています。今後も「魚つかみ」を楽しみながらデータを収集・発表し、生物の保全に役立つ活動を続けて行ければと思います。(報告: 中尾博行)

■2月18日(日)勉強会「私の一冊・私の逸品・みんなで同定しよう」

場所: 琵琶湖博物館実習室2

参加者: 12名

お気に入りの書籍や道具の紹介と、同定相談の会を行いました。皆さんそれぞれの持ち寄った書籍や道具について解説され、知らなかった本や道具に目が点。興味津々に質問も相次ぎ、会終了後は紹介された本や道具の周りに集まってしばし歓談。紹介された本については末尾にあげておきます。

未同定の魚の写真には、多くの会員が困惑(雑種等含む)。「たぶん」という接頭語のついた魚名がでたり、結論が出なかったりしました。しかし一番驚いたのはその写真の美しさ!ほとんどの魚がひれを立てた状態で撮られており、いつかそのテクニックを実地で教わろうという話になりました。

■以下、当日紹介された本

- ・魚つかみの楽しみ方(初級編、上級編) 琵琶湖博物館うおの会
- ・外来生物 -つれてこられた生き物たち(琵琶湖博物館企画展図録) 琵琶湖博物館
- ・川と湖の魚①・② 川那辺浩哉・水野信彦 保育社
- ・侵略の生態学 チャールズ・S・エルトン(川那辺浩哉訳) 思索社
- ・あゆの子アッポ 斎藤晴輝 講談社
- ・湖国びわ湖の魚たち 滋賀県立琵琶湖文化館編 第一法規出版
- ・魚にも自分がわかる -動物認知研究の最先端 幸田正典 ちくま新書
- ・淡海生物(季刊誌) 淡海生物研究会
- ・琵琶湖とナマズ -進化の秘密を探る 友田淑郎 汐文社
- ・川と魚の博物誌 渡辺昌和 河出書房新社
- ・アユの話 宮地伝三郎 岩波新書
- ・イワナの謎を追う 石城謙吉 岩波新書
- ・イワシと気候変動 -漁業の未来を考える 川崎健 岩波新書
- ・サケ J.W.ジョーンズ(松井宏明訳) 思索社
- ・生物進化を考える 木村基生 岩波新書

(報告: 石井千津)

#### 【今後の予定】

総会にて2024年度の計画を決定します。採集以外のお楽しみ企画もいくつか考えています。詳細はメールにてお知らせします。

### 【活動報告】

■令和6年2月26日(月) 場所:長浜市湖北町 参加者:3名

26年連続して飛来したアイドル「山本山のオオワシ」

オホーツク海沿岸部から越冬のため飛来しているオオワシが北帰する前に会いに行く。一般的には北海道で越冬し鮭などを捕食するということだが、この個体は約1000kmも離れた琵琶湖まで飛来し、オオクチバス等を捕食している。11月18日に飛来が確認され、年齢が30歳以上の雌であることから通称「山本山のおばあちゃん」と呼ばれている。多くのファンが早朝からオオワシが飛び立つ瞬間と琵琶湖で魚を捕る瞬間をカメラに収めようと待ち構えている。このオオワシは正にアイドル的な存在である。湖北野鳥センターではオオワシの展示がされていて学芸員から丁寧な解説も聞くことができた。この後、2月29日に北帰が確認された。

■令和6年3月1日(金) 場所:東京都台東区 参加者:4名

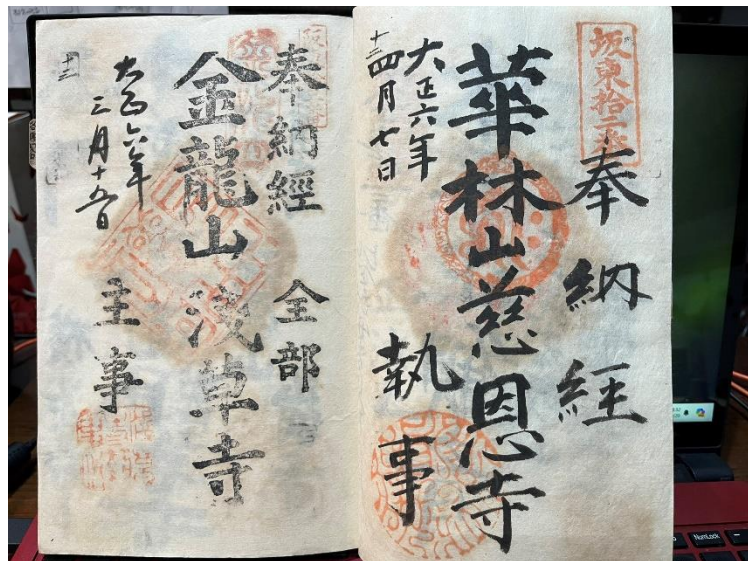
雷門で有名な金龍山浅草寺に参拝

浅草寺は聖観世音菩薩を本尊とする坂東三十三箇所の第13番札所である。甲賀准四国の発願者の納経帳では大正6



年(1917年)3月に確認することができ、107年という時間に感慨深いものがある。発願者の甲賀准四国設置までの巡礼の経過を見てみると、明治43年に拾遺州西国

霊場と近江西国霊場。明治44年は南海道の四国と伊賀国の新四国。続いて明治45年に甲賀西国を巡拝するうちに、巡礼の有難さを深く感じ、地元にも写し霊場を設置したいとの思いから、4月に甲賀准四国八十八箇所を設立している。その後も発願者の巡拝は続き、5月には淡路西国を巡っている。大正2年には尾張国知多郡の新四国、讃岐国小豆島の新四国と続き、大正6年3月に秩父坂東三十三所を巡拝している。発願者の熱意と信心の深さを感じた。





【活動予定】

- ・「甲賀准四国八十八カ所」に関連した調査活動として、一カ寺ごとの二次調査を行い、データ集積を行う。
- ・「近江 巡礼の歴史勉強会」としての纏め作業を開始する。

(福野憲二)



(3) 淡海スケッチの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 榎永 一宏

■ 2024年 2月 18日(日) 琵琶湖博物館 参加者 3名  
オープンラボや水族展示室等でスケッチ、および博物館敷地内で  
吟行を行いました。

☆ 博物館 de 俳句

この日に会った季語は、  
蓬、茨の芽吹、踊子草、クローバー、古草、若草、鳥の恋、古巣など

朝からの雨が上がり、鶉(ひよどり)の聲がかしましいくらい。  
芽吹き始めた水辺の木々に扇鷄(じょうびたき)やこげらを見かけました。  
二羽の四十雀(しじゅうから)はつがいなののでしょうか。枝から枝へ追いつ  
追われつする様子に、これが歳時記で見る「鳥の恋」なのか?と春の訪れ  
を実感しました。

※写真/湖畔の茨の芽



■ 2024年 3月 17日(日) 琵琶湖博物館 参加者 2名  
展示されている鳥をスケッチ、また、博物館敷地内での吟行を行いました。

☆ 博物館 de 俳句

この日出会った季語は、  
鶯(うぐいす)、ふきのとう、つくし、諸葛菜、藪椿、春塵(しゅんじん)など

駐車場にならぶ車のフロントガラスにはうっすらとほこりが。  
車を降りてすぐに鶯(うぐいす)のホーホケキョという声を聞き、こころも軽く  
博物館へ。

樹冠トレイルの手前に「鳥の糞用」と書かれたブラシや雑巾やバケツ、箒などが  
置かれているのを見つけ、樹冠トレイルの茶色の手摺がつるつるピカピカに  
なっていることに気がきました。樹冠トレイルサポーターの方々のおかげでしょ  
うか。

春休みが近いせいか、小学生や中学生ぐらいの子どもたちがこの場所で記念  
撮影をしていました。見上げるとすぐそばに大きな鳥の巣が。その近くの木の  
枝につがいの目白が来ていて、さえずりながら飛び立ってゆきました。



※写真／博物館敷地内のふきのとう

### 【活動予定】

○ 2024年 4月 28日(日) 花緑公園・三上山(野洲市)

集合場所・時間 花緑公園駐車場 10時30分集合  
活動時間 10時 30 分～(16時)

スケッチおよび散策や吟行をします。

○ 2024年 5月 26日(日) 立木観音(大津市)

集合場所・時間 後日お知らせします。  
活動時間 10時 30 分～(16時)

スケッチおよび散策や吟行をします。

※持ち物／スケッチブック、鉛筆、水彩絵の具等、スケッチの道具。

俳句をされる方は、それぞれ吟行に必要なものをお持ちください。

※写真／諸葛菜





## (4) 近江はたおり探検隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 18名】

グループ担当職員: 橋本道範

### 【活動報告】

#### ■1月31日(水) 参加者:4名

今回は年1回のこんにゃく作り。かなり慣れてきたけど、ゆでる回数ごとに固さや色が違いました。ミキサーで攪拌するときに入れる水の量が一定しないからでしょうか。

#### ■2月7日(水) 参加者:4名

シナの繊維でイタヤウマを作りました。繊維を上、下、と交互に通していくのは織物と同じ作業でした。同様にカゴやコースターが作れないかと思案しました。

#### ■2月24日(土) 参加者:5名

バンダンリーフをもらったので、カゴを作ってみました。作り方はビデオを見ながら試行錯誤して、なんとかマスターできました。これも上、下、と編んでいくのは織物と同じ作業です。次はどんな葉が使えるかや、目数を増やすなどの課題ができました。

#### ■3月6日(水) 参加者:5名

各自の作業。糸紡ぎなど。



1月31日 コンニャク作り



2月7日 イタヤウマ作り

(辻川智代)

### 【活動予定】

#### ■織姫の会

1月31日(水)、2月7日(水)、24日(土)、3月6日(水)、23日(土)



## (5) 大津の岩石調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 21名】

グループ担当職員: 里口 保文

### 【活動報告】

#### ■2024年1月の活動

##### ○勉強会

日時: 1月20日(土) 13:30 から 参加者 8名

場所: 琵琶湖博物館 実習室1

内容:

1. 鉱物化石展への参加に向けて、隊員が県内で採取した岩石を持ち寄り検討しました。
2. 来年度の活動計画についての話し合い。年度予定は下記となりました。
- 4月 福井県大飯町方面野外調査会・琵琶湖博物館 鉱物化石展へ参加
- 5月 瀬田川鹿跳橋付近の野外調査
- 7月 岩石薄片の偏光顕微鏡観察
- 8月 びわ博フェス参加準備予定
- 10月 比良山方面調査会
- 11月 びわ博フェス参加予定
- 12月 はしかけグループ・びわたんとのコラボ、「わくわく探検隊」体験学習のプログラムに参加
- 1月 勉強会
- 2月 地学研究発表会に参加予定

#### ■2024年2月の活動

##### ○第37回地学研究発表会 (主催 琵琶湖博物館 地学研究室)

日時: 2月18日(日) 13:20 から

会場: 琵琶湖博物館 セミナー室、参加者 5名

地学の分野において、皆さまの郷土への情熱と温かいまなざしを感じました。

## ■2023年3月の活動

○鉱物化石展にむけての準備 花崗岩の採取

日時: 3月16日(土) 10:00から 参加者 8名

場所: 野洲市田中山

新鮮な花崗岩、風化した花崗岩、真砂化したもの等を取扱しました。下山後に、鉱物・化石展展示の詳細などを議論しました。

### 【活動予定】

#### ■今後の活動予定

4月20日(土) 福井県大飯町方面調査会

4月20日から 鉱物化石展



## (6) 温故写新

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:加藤 秀雄  
金尾 滋史

【活動報告】活動はありませんでした。

【活動予定】2024年4月13日(土)に総会を開いて今後の活動について話し合いの場を設けます。



## (7) くらしをつづる会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

【活動報告】活動はありませんでした。

【活動予定】未定です。



## (8) 古琵琶湖発掘調査隊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 15名】

グループ担当職員:山川 千代美

### ■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑭

日時:1月21日(日) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1

参加人数:6名

活動内容:植物化石のクリーニングに取り組みました。それぞれの化石の状態に応じて、クリーニングや化石を観察しやすくするために母岩を削るなどの作業を行い、計9点の植物化石をクリーニングすることができました。



### ■「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された化石のクリーニング⑮

日時:2月10日(土) 13:00~16:00

場所:琵琶湖博物館 おとなのディスカバリー内 オープンラボ

参加人数:4名

活動内容:植物化石のクリーニングを行いました。植物は種類ごとに葉や種子の形状が異なるため、種類ごとに母岩の削り方を変えていくなどし、一つひとつ丁寧にクリーニングしていきました。化石のクリーニングは、回数を重ねていくことで経験や知識を得ることができるため、次回はさらに丁寧かつ円滑にクリーニングを進めていければと思います。今回の活動では、計7点の植物化石をクリーニングすることができました。



■古琵琶湖発掘調査隊 総会

日時:3月2日(土) 13:00~17:00

場所:琵琶湖博物館 実習室1

参加人数:5名

活動内容:総会を行う前に、「多賀町古代ゾウ発掘プロジェクト 第十次発掘調査」で採集された昆虫化石の保存作業を行いました。化石の保存状態を確認しながら、必要に応じて保存のためのアルコールを足しました。

その後、総会を行い、2023年度の活動報告や次年度の活動などについて話し合いました。

【活動予定】

■未定



(9) ザ! ディスカバはしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:妹尾 裕介

【活動報告】

■活動はありませんでした。

【活動予定】

■ディスカバリールームで「こんな楽しいことしたい！」などアイデア・提案があれば、お気軽にお声がけください。いつでもお待ちしております！



(10) 里山の会

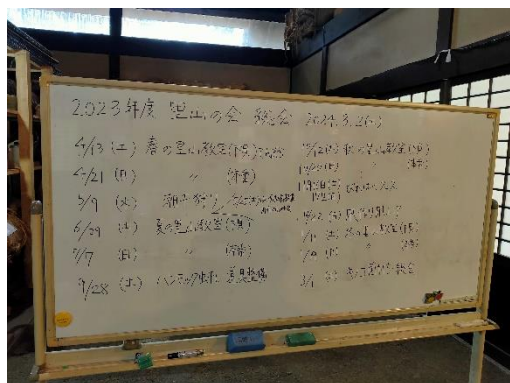
【活動報告日の活動会員数(のべ) 10名】

グループ担当職員:美濃部諭子

■3月2日(土) キノコ菌打ち・総会 参加者 10名

例年、総会の時期と原木シイタケ植菌の適期が重なっていたため、同時に開催してきましたが、今年のキノコ栽培担当(寺尾)の原木調達の都合が合わずに植菌は中止になりました。

それでも、工房裏手の雑木林の「ほだ場」には、昨年までに植菌した30本あまりの原木が現役で、この10年ほどは自然のまま子実体(私たちがキノコとして食している部分)が多賀産コナラの原木からニョキニョキと発生しています。シイタケは原木のセルロースなどを分解吸収して成長する腐朽菌の仲間、ほだ木は3年ほどで養分を吸い尽くされたようにボロボロになります。シイタケの発生は、気温の変化がスイッチで、寒くなる時期と温くなる時期の2回です。丁度、今時分が発生の時期となります。総会のあとの昼食で、前田さんが持参してくれた手づくり味噌や野菜などと併せてシイタケたっぷりのお汁を頂きました。ご参加いただけなかった方々は、次回活動に是非お越しください。お待ちしております。(寺尾)





## 【今後の活動予定】

- 4月12日(日) 里山体験教室 下見
- 4月21日(日) 里山体験教室 本番
- 5月9日(木) 潮干狩り
- 5月25日(土) はしかけの森整備、お楽しみ会



## (11) 植物観察の会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 3名】

グループ担当職員: 芦谷美奈子

暖冬とはいえ、やはり寒い。しかし、朝に氷が張ったのがこの冬で2回程度だったのは、暖かい証拠なのかもしれない。

セツブンソウも2月末で、早くも結実していた(例年は3月始めに満開、結実は3月中旬)。今年は、モモも3月3日の節句に合わせてように満開、サンシュユも例年より早く3月5日に満開になっていた。

なんとなく気になったので、自分の記録をさぐってみた。

2024年(今年) セツブンソウ(米原)2月29日 ほとんど結実、満開のぴったりはたぶん10日前の19日頃。

ユキワリイチゲ(甲賀市)3月14日 満開、ミヤマカタバミも満開。カンサイタンポポ開花あり。

2023年 セツブンソウ(米原)3月19日満開。

ザゼンソウ、オウレン(栗東自然観察の森)2月26日開花、咲き残り?

2022年 セツブンソウ(米原)2月28日満開?積雪があつて行けない、3月5日(長尾寺)残雪の中、満開。フクジュソウも開花。

ユキワリイチゲ(甲賀市)3月24日開花、蕾多い。

イワウチワ、ニリンソウ(栗東自然観察の森)4月3日満開

2021年 セツブンソウ(米原)2月16日満開。

2020年 セツブンソウ(米原)2月18日雪降りて確認できず、2月25日満開。キバナノアマナ開花。

ばらばらで統一性のない記録だが、「今年は開花が早そう! 早く見に行かなければー」などと自分の感覚で行動しているので、なかなかドンピシャで開花! というわけにはいかないのが現状…。ただ、「この花の開花(満開)から〇週間経った頃、次にこの花が咲く」と出かけて行くと、それが当たっていることが多く、嬉しい。

## 【活動報告】

2月 4日(日) この月は毎年お休み

3月 3日(日) 持ち寄ったものの観察 10:00~12:00 すぎ 参加者 3名

実態顕微鏡と顕微鏡を使って観察することでルーペでは見られない部分まで見ることができ、驚きが多かった。

この日もやはり前回に続き、コケの観察になった。

肉眼で見ると同じように見えているものも、顕微鏡で見ると葉の形や茎への巻き付き方などで「こんなに違うんだー」と納得できる。しかし、コケの葉は小さすぎてその切片を採るなどの細かい作業が難しく、「〇〇のなかま」ということしか分からない。また、この時期には蒴(さく)といわれる胞子体がほとんど採取できず、「自分たちでは種名まで分からない」ということも痛感した。そんなこともあり、以前から分かっているものや同定してもらって確実に種名が分かっているものと、自分たちが採取してきたものを比べることで学んでいくのが一番良いのだろう。

この日は、タチヒダゴケ(タチヒダゴケ科)とヒナノハイゴケ(ヒナノハイゴケ科)の葉先の違い(ヒナノハイゴケは葉先が細く伸びる)、スギゴケのなかまの葉の鋸歯(アロエの葉ようだった)、ハリガネゴケやウリゴケのなかまの葉と茎、イシクラゲの植物体の一部を見た。ハリガネゴケは、葉に対して茎が太い? 葉が細い? 乾燥保存したせいで葉がくちやくちやになっているのか、元々そうなのか、が分からない。イシクラゲは、シアノバクテリアを共生させていてかなり古い生物だということ聞き、「ストロマトライト(地球上に酸素を供給した)と同じなんだー!」と感激。しかし、イシクラゲを顕微鏡×400で見ても、同じような茶褐色の色をしたのっぺりとしたものしか見られず、期待した細胞壁も組織も何も分からなかった。他のコケを見たときには×200で1つ1つの細胞が見られたので、藻類であるイシクラゲはもっと細かなつくりなのだろう。



帰りの駐車場までの道で、ケヤキの樹皮についているヒナノハイゴケ、タチヒダゴケなどを確認。ここでもコケは何種類も混じって生息しており、そこに地衣類も混じっているので自分たちではなかなか判別しにくい。こんな所でルーペを持ってケヤキのまわりでしゃがみ込んだり、樹皮に顔をくっつけたりしながら、「やめられないなあ」「(横を歩いていく人には)変な人たちに見えるだろうなあ」と皆で言いながら30分ほど観察を楽しみ、解散した。

## 【今後の活動】

- 月に1回、第1日曜日の午後を予定しています。
- 外部へのお出かけの場合は、これに限らず、変則的になります。  
基本的には、危険が無く雨でも歩ける所で、大雨や警報が出ない限り「行方」方向でいます。

- 2月 毎年お休み
- 4月以降は未定、 ※8月、2月の活動は、例年お休みしています
- ※新型コロナウイルス、インフルエンザ等の感染拡大等によっては、お休みになることがあります



## (12) たんさいぼうの会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 25名】

グループ担当職員 大塚 泰介(影の会長)

### 【活動報告】

この2~3月、会としての活動はありませんでした。

会員たちの個人活動は相変わらずゆっくりとですが進んでいます。しかし、影の会長が館と学会の業務で多忙な上、外来種や新種を含む新発見が次々と持ち込まれてパンクしかかっており、これが会の研究が学会発表や論文公表へと進んでいかない最大の原因になっています。

最近のトピックとしては、琵琶湖で以前から冬期になると大量出現する円盤型珪藻のうち最も数が多い種が、新種である疑いがいよいよ強まってきたことが挙げられます。この種は1 mLの湖水中に万のオーダーで含まれていることもありますが、直径が3-5 μmくらいしかありません。そのため小さすぎてプランクトンネットにかからず、また100倍くらいの顕微鏡で観察してもその存在にすら気づかれないことが多いのです。琵琶湖で普通にみられる珪藻の中にも、まだ未記載種が潜んでいるようです。論文になったらまたニュースレターで報告します。

### 【活動予定】

たんさいぼうの会第77回総会を、4月7日(日) 10時から琵琶湖博物館研究交流室で開催します。午後は恒例のお花見です。ご関心のある方は上記代表アドレスまでご一報を。はしかけ会員であれば飛び入りも歓迎します。

「たんさいぼうの小さな旅 in 年縞博物館」の日程は、4月14日(日)に決定しました。道すがら、安曇川のみずワタクチビルケイソウの簡単な調査も行います。自動車に分乗して行きますので、参加希望者は上記代表アドレスまでご一報ください。

個人研究は、これまでと同様に進めていきます。



## (13) 田んぼの生きもの調査グループ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 6名】

グループ担当職員:鈴木 隆仁

2月末あたりから寒い日が続いています。3月の2日も3日も雪のちらつく博物館です。色づいたサクランボやアーモンドのつぼみもしばらくはじっと我慢です。もう2か月もするとエビたちの季節が始まります。今頃彼らは卵の中ですすでに準備中でしょうか、それともまだ夢のなかでしょうか。

### 【活動報告】

・2024年3月3日:琵琶湖博物館実習室2で、総会を行いました。議題は博物館に提出する2023年度活動報告書の内容確認と2024年度の活動計画でした。しばらく続けていた石山地区、瀬田地区でのカプトエビ2種の競合調査は2023年度をもって一旦終了としました。2024年度はその代わりに、2023年度に新たに報告のあった近江八幡市内野のアジアカプトエビ、長浜市のハウネンエビの分布調査が加わります。未調査メッシュの調査、琵琶湖博物館屋上に設置したコンテナでのカプトエビ飼育実験は来年度も継続です。来年度の調査については、できるだけ車を利用しない方向で行います。

来年度の最初の調査は5月中旬と予想されるため、次回の会議は5月12日(日)を予定しています。広域調査の調査地、日時、班分け、集合場所の決定や、調査道具の準備を行います。

(石井 千津)



## (14) タンポポ調査はしかけ

【活動報告日の活動会員数(のべ) - 0名】

グループ担当職員: 芦谷 美奈子

### <グループの活動について>

「タンポポ調査はしかけ」は、「タンポポ調査・西日本」というタンポポの参加型広域調査に協力しながらタンポポについて学ぶことを目的にしているグループです。

### <「タンポポ調査・西日本2025」が始まりました！>

西日本調査の事務局から連絡があり、「西日本」という括りではありませんが、希望県による調査は行われることになりました。滋賀県は、調査に参加することにしました。これまでの方法を引き継ぐ取り組みとしては、滋賀県では最後のタンポポ調査になる可能性があります。

実行委員会としては、滋賀県は調査には参加はしますが、2024年・2025年の2年にわたって行われる調査のうち、1年目(予備調査と呼ばれている)調査は、諸般の事情(実行委員会の体制の問題など)により、積極的に実施せずこれまでの熱心な調査参加者に呼びかけて調査を実施する予定です。2年目である2025年には、広く一般にも呼びかけて参加型調査を行いたいと考えています。

このグループ自体、コロナで交流活動ができなかった2020年調査の際に活動が縮小しメンバーも減ってしまったため、今後はグループとしてではなく、個人で調査に参加を呼びかける予定です。引き続きよろしくお願いたします。

### 【活動報告】

新規の活動報告は特にありません。

### 【活動予定】

現時点では、特に活動予定はありません。

(文責: 芦谷)



## (15) ちこあそ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員: 松岡由子  
中村久美子

※一般参加は、びわ博ホームページからのオンライン予約制です。また10時から14時までの一日の活動としています。

### 【活動報告】

#### ◆2月の活動 2/21(水) 8組(幼児10名、大人8名)

春を感じさせる暖かい日差しが届く2月でした。1月に続いて、畑や広場の端のフキを探しに行きました。日当たりのよい所で落ち葉をのけると、小さなかわいい春、フキが見つかります。お母さんと子ども達が一つひとつ摘み取ってお土産に。フキ味噌になったのかな。

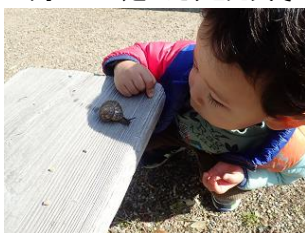
子ども達の低い目線は、春を感じた生き物がそろりそろりと出てくる様子を見つけるのにぴったりです。フキに、カタツムリに、カナヘビに、冬眠中のナミガタチビタマムシも、子ども達がじっと見つめる視線の先に顔を出しています。ホワイトビーチに行けば、裸足になって砂遊び、走ったりこけたり、棒を並べたり、無限の遊びがあります。

#### ◆3月の活動 3/20(水祝) 4組(幼児6名、大人6名)

2月の暖かさとは打って変わって、嵐の日となりました。空はどんよりと曇り、琵琶湖は白波を立てて荒れ、西風が北風に代わる、春の嵐です。そんな中でも「遊ぼう」と来てくださりました。

琵琶湖岸は風がビュービュー吹いているのですが、生活実験工房は木々に囲まれ意外と風が収まっています。畑で収穫忘れのキクイモや、ノビルを掘り出しました。それらは台所で調理して、美味しくいただきました。

風が吹くホワイトビーチへ出かけてみました。大人たちは風の強さに「さぶいー」の一言。しかし子どもは風の子、砂遊びをしたり、風に向かって走ったりと元気そのもの。最後は大人がめげてしまい、温かい工房に戻りました。



カタツムリを観察 2月



小石や枝、ドングリで遊ぶ様子 2月



落ち葉の上を登ろう 3月



キクイモかな、ノビルかな 3月

◆ようちえん、ほいくえんに行くよの子たちも。来年度も来ますよの子たちも。

4月から幼稚園や保育園に行くので、3月でちこあそはお終いですとの声もいただきます。みんなちこあそで遊んだように、4月からもたくさん自然に触れて、不思議や発見をたくさん見つけてね。そしてまた大きくなって遊びに来てくださいね。降園後に午後からちこあそに来る子たちもいるよ。お待ちしております。

【今後の活動予定】びわ博ホームページで2か月前から参加予約ができます。

活動月	実施日、時間	タイトル	内容
4月	4月17日(水) 10:00-14:00	ちこあそ4月	定員10組 予約制です。びわ博イベントHPからお申し込みください。 毎月おおよそ第3水曜日に行っています。(8月はお休み) コロナ禍の実施についてはその都度判断します。
5月	5月15日(水) 10:00-14:00	ちこあそ5月	ループでの自然観察、森の探検、ガチャコンポンプの水遊びなど やさしい自然遊びを子どもや保護者の方とゆっくり、ポチポチ過ごします。

はしかけの新しいメンバーも飛び入りも大募集中です。一緒に子ども達と遊びましょう！



## (16) 琵琶湖の小さな生き物を観察する会

【活動報告日の活動会員数(のべ)12名】

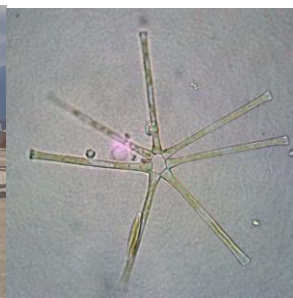
グループ担当職員:大塚 泰介

■ 2月10日(土) 参加者:12名、学芸員:1名

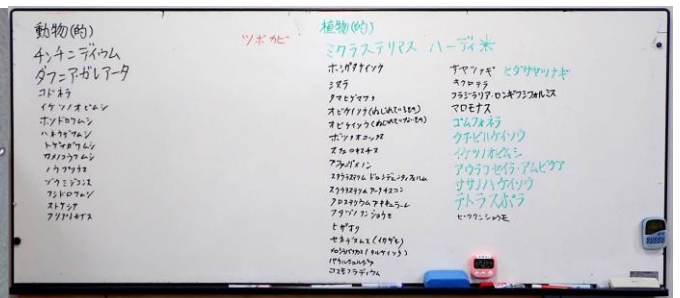
博物館前のプランクトンを観察しました。最近南湖ではカプトミジンコが大量に発生しておりプランクトンネットにも多く入ってきました。初参加の方もいましたがベテラン会員による解説で楽しんで頂けたようでした。



採集の様子



ホシガタケイソウとツボカビ



観察したプランクトン

### 【活動予定】

琵琶湖の小さな生き物を観察する会では月に1回、観察会を行っています。見学・参加希望の方はグループ代表アドレスまでお問い合わせください。



## (17) びわたん

【活動報告日の活動会員数(のべ) 5名】

グループ担当職員:安達克紀・渡邊 俊洋

### 【活動報告】

2月10日 「ミニ水族館」をつくらう

参加数:一般参加16名、びわたん5名、教師塾4名、職員2名

今回は松田学芸員に「水族展示室の裏側を知る」という狙いで博物館にある水族展示室で魚たちに快適な環境を届けるために日常どのような努力がなされているかをスライドと現場の水槽を前にして皆で学びました。びわ湖に設けられた取水口から末端の水槽にいたるまでに水の浄化と感染防止の為の消毒、空気の吹き込みなどの仕組みがあること、魚の性質に合わせた隠れ場所の提供、毎週の清掃作業など今まで聞いたことが無かったお話をたくさん聞くことができました。

次に段ボール箱を水槽に見立て、ラミネートしたびわ湖の魚カードから魚を切り取り水槽内に釣り糸で吊って泳がせました。水槽内の背面にミラーペーパーを貼り、水草、岩、隠れ家、底石や空気の泡を模したシールで飾り付けました。ミラーペーパーが奥行き感を醸し出し臨場感満杯の水槽が完成しました。初めての試みでしたが初めて聞く話と、工作の完成度で満足一杯のイベントでした。

続く反省会の中で、スライドは子供達には少し難しい言葉が並んでいたが、保護者も熱心に聞く様子が見られ、理解しにくい言葉も返って帰宅後の親子の対話を促す事が期待できるのではないかとの意見でまとまりました。時間配分など課題はありましたが来年も期待できるイベントだったと思います。



### 3月9日(土)「火を起こしてみよう！」

参加者は17名でした。はじめに今、暮らしの中で火を使うのはどんな時かな？と思い出してもらい、昔はどうだったかお話ししました。次に火を使う時、火はどうやって起こすのか？聞くと、キャンプなどでライターやマッチを使った事がある方がいました。ライターやマッチがない時代はどうしていたのか？聞くと有名番組で火を起こす姿を観た方がいました。

昔の暮らしについて話した後は、まいぎり式火起こしを体験してもらいました。道具の使い方を説明し、グループ毎に挑戦していただきました。あいにくのお天気も加わってなかなか火が起こらない…肌寒さが残る季節に汗が吹き出す参加者もおられました。火種までは出来るんですが、火が起こるまでは今回出来ませんでした。最後に火打ち石で火を起こす実演を安達先生にして頂きました。

火を起こすのは大変！火を守ることが昔の暮らしでは大切だったことを知ってもらえたかと思います。



## (18) ほねほねくらぶ

【活動報告日の活動会員数(のべ) 8名】

グループ担当職員:半田 直人

### 【活動報告】

■2月4日(土) 参加者:2名

カミツキガメの解剖、鳥の骨のクリーニングを行いました。

■2月24日(日) 参加者:3名

ハクビシンの解剖、猿の骨のクリーニングを行いました。

この日は筆者は猿の骨のクリーニングを行いながらその合間に個人的な活動として骨のスケッチを行いました。

スケッチを行うのは久しぶりだったので、しっかり骨の形を表せるように観察しながら行ったのですが、一か所を見すぎていると全体の形に食い違いが出たり、上手く形にならなかったりとあまり上手くは出来なかったのですが、久しぶりにじっくりとスケッチする事が出来て、楽しかったです。

これは個人的な感想なのですが、骨をスケッチするのはとても面白いと思っています。

骨の形はシンプルな様でとても複雑な形をしているので、スケッチしていると、その形を追っているだけでとても楽しいのですが、スケッチする対象としてもとても不思議な感じがするのです、質感なんかを見ていると木材などに近いのかと思いきや、その形を追っていくとなんだか生物らしくもあって、なんだかその二つのもの間にあるような不思議な魅力を感じられます。

ほねほねくらはは標本の制作を行うだけではなく自分が興味のある事に取り組めるので、もし骨のスケッチなどに興味がある方がいらっしゃいましたらぜひお訪ね下さい。



■3月6日(日) 参加者: 3名

カミツキガメの解剖、ハクビシンの解剖、を行いました。

【活動予定】

4.5月の活動予定日は現在未定ですが、月に2、3回の活動を予定しております。



(19) 緑のくすり箱

活動報告日の活動会員数(のべ) 39名】

グループ担当職員:大槻 達郎

【活動報告】

■2月17日(土) 午前中 参加者: 13名

活動内容:七味作り(実習室2)

今年度、初めての試みで、メンバーが自宅等で育てている唐辛子をメインにした、七味唐辛子作りの企画をしました。

唐辛子の歴史を学んだり、日本三大七味(東京・京都・長野)の違いを知ったり、世界のミックスハーブについて学んだりと知識を深めてからの活動になりました。

前回の活動から、唐辛子をはじめ、山椒や生姜、胡麻、陳皮など、数々の材料を担当のメンバーがたくさん準備してくれました。手作りの七味は、辛いのが苦手な方であれば、他の材料を増やしたりできるので、自分好みの七味ができたと思います。



【参加者の感想】

- ・四季折々のハーブの感想が大変でしたが、オリジナルの七味、ハーブソルトが作れて楽しかったです。
- ・七味の材料がたくさん並んでいるところがワクワクしました。
- ・七味は、家に帰ってお鍋で味比べしながらいただきました。

- ・集められた香辛料の量に圧倒されました。
- ・何種類も入ったゴージャスな七味ができました。
- ・準備の段階から参加させてもらって、地域によって材料が違うなど学ぶことも多く、材料集めもたのしかったです。

■2月17日(土) 午後

活動内容: 廃油石鹼作り(実習室2)

今年も廃油石鹼を作りましたが、今回の石鹼には、メンバーが牛すじを炊いたときに出た牛脂を使用しました。動物性の油脂を石鹼に加えると、かたい石鹼になり、使っていくうちに石鹼がやわらかくなってしまふのを防げます。また、コーヒーのかすや、みかんの皮を乾かしたものを入れたりと捨てるものが石鹼の材料として生まれ変わったのも面白かったです。



**【参加者の感想】**

- ・真っ黒なコーヒー石鹼、出来上がりが楽しみです。
- ・石鹼作りは、みんなでやるのが良いですね。
- ・初めての石鹼作り、色々細かく教えてもらって、油と苛性ソーダといったシンプルな材料と行程でできるのが感激しました。
- ・今年も石鹼がゆるく、固まるのに時間がかかりそうです。ミキサーの連続回転が少なかったのかな？
- ・石鹼を切ったときにどんな模様になっているか、楽しみです。
- ・石鹼作りは、すぐに使えないところに、じっくりと待つ喜びを感じます。

■3月9日(土) 参加者: 9名

活動内容: 木のスプーン作り(生活実験工房)

昨年も実施した「木のスプーン作り」。今回はシナの木を使ってスプーンを作りました。今まで作ったスプーンの種類としては、とてもやわらかいのが特徴で、初心者でも作りやすかったです。仕上げに油を塗ると、よく吸い、木目がきれいに出来ました。初めて挑戦するメンバーもいて、大変だったけれど、できた時には感激していました。



### 【参加者の感想】

- ・木のスプーン作り、楽しかったです。彫刻刀など久しぶりに握って掘りました。「木」なので使いながらも改良できて、自分の心地よいスプーンにできるなど教えていただきました。
- ・思った以上に手間がかかることに途中で投げ出しそうになりながら、なんとか完成しました。
- ・直方体のシナの木からスプーンの形がだんだん見えてくるのが楽しかったです。お手入れの仕方なども教わったので大事に使っていきたいです。
- ・これでもかと油をかけても染み込んでなくなってしまってびっくりです。シナの木の特徴ですね。
- ・ノコギリ行程では、気の遠くなるような気持ちでしたが、フォローしていただき完成できました。

■3月17日(日) 午前中 参加者16名

活動内容:年度末総会

今年度の活動の振り返りと、来年度の計画をたてました。

■3月17日(日) 午後から 参加者1名

活動内容:環境学習センター主催「淡海こどもエコクラブ・サポーター交流会」

環境学習センター主催の「淡海こどもエコクラブ・サポーター交流会」にて、アロマウォーター作りのサポートをさせていただきました。アロマテラピーで使う精油の取り扱いや、スプレーづくりの注意点などをお話しました。

### 【活動予定】

- ・5月(未定) お茶摘み体験 (甲賀市鳥居野)
- ・5月14日(火) 10:00~ 季節の植物でアロマウォーターを作ろう(生活実験工房)



## (20) 虫架け

【活動報告日の活動会員数(のべ) 2名】

グループ担当職員:今田 舜介

### 【活動報告】

■今回はグループとしての活動がなかったので、個人の活動をいくつか紹介します。

2月3日、虫架けのメンバーが琵琶湖博物館の収蔵庫の標本の整理を手伝いに来館しました。その来館のおり、虫(死骸)を発見。後ほど同定してみたところコガシラアオゴミムシであることが判明しました。

2月8日、メンバーが自宅で朽木を崩していたところ、ゴミムシやゴミムシダマシがいくつか出てきました。そのひとつにアオゴミムシが含まれており、コガシラアオゴミムシと同じ仲間ですので虫架け通信に報告しました。

メンバーが、第33回夏休み昆虫研究大賞において、「ナナフシとアリ両者の関係は?」の研究論文で「準大賞」と「佐藤 祐治賞」をW受賞されました。





また、「虫架け通信」64号、65号を発行し、昆虫に関する知識や各メンバーの報告を共有しました。

【活動予定】

3月16日に来年度の活動予定を検討する予定です。来年度も1か月に1回程度の野外調査や室内勉強会を行う予定です。昼夜問わず観察・採集などをして、滋賀県内の昆虫の分布調査をしたいと考えています。

(文責:伊東)

【活動予定】

(文責:伊東)



(21) 森人(もりひと)

【活動報告日の活動会員数(のべ) 16名】

グループ担当職員:林 竜馬

【活動報告】

■ 1月27日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)6名 (博物館職員)林

内容:樹冠トレイルのツル植物などの除草及び枯れ木の除去作業を行った。トレイル内のシイノキはカミキリムシの被害が多いので対策を考える必要がある。

■ 2月24日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)7名 (博物館職員)林

内容:来年度の活動計画作成のためにワークショップ内容、落葉広葉樹の森の整備、樹木データベースの作成および「びわたん」とのコラボなどについて意見交換を行った。そのあと太古の森で樹木に這い上がっているツタの除去を行った。

■ 3月9日(土)10:00~12:00 参加者:(会員)3名 (博物館職員)林

内容:樹冠トレイルの美観をよくするために枯れた枝葉やツルの除去を行った。このあと太古の森に近いホール屋上に移動し樹木を観察した。ノグルミは昨年たくさんの果実をつけ、センペルセコイアは木によっては雄花をたくさんつけていたが残念ながら雌花は見つけられなかった。メタセコイアは雄花、雌花及び昨年の球果が見られ、コウヨウザンは少し距離があったが昨年の球果と新芽(又は花芽)の展開が見られた。



【今後の予定】

■ 3月23日(土)10:00~12:00 集合場所:職員駐車場 内容:博物館周辺の樹木などの観察

■4月13日(土)及び27日(土) 内容は未定  
以上



## (22) 琵琶湖梁山泊

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:安達 克紀・渡邊 俊洋

### 【活動報告】

現在、琵琶湖梁山泊は活動を完全に停止しています。元会員や卒業生たちがとどき琵琶湖博物館に遊びに来て、現在進めている研究の話などを聞かせてくれるだけです。

### 【活動予定】

この先の活動予定は全く立っていません。  
一昨年まで活動を続けてきた会員は、この3月までに全て高校を卒業し、中高生の会員はいなくなります。まだしばらく新規会員を募集しますが、次年度の上半期で入会希望者が現れなければ、会を畳むことにしようと思います。



## (23) サロン de 湖流

【活動報告日の活動会員数(のべ) 0名】

グループ担当職員:中川 信次

### 【活動報告・活動予定】

■ 今後の活動方針について協議を進めようとしているところですが、今のところ特に進展はありません。



## (24) 水と暮らし研究会

【活動報告日の活動会員数(のべ) 14名】

グループ担当職員:楊 平

### 【活動報告】

■ 令和6年1月11日(木)9:00-12:00 晴 参加者 7名

1. 活動先: 東近江市 大萩町一帯
2. 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、昭和47年に台風20号で奥深い鈴鹿山中にあった大萩村が大規模な土石流被害を受けて、昭和50年に現在の地(現:大萩町)に大萩団地を造成し集団移住せざるを得なかった、という経緯と新生活の基盤づくりに苦勞された前後の状況も含め調査した。

- 1) 集団移住までの大萩町の集落の変遷について。

大萩の旧集落(現在の百済甲町)は犬上川の谷の南岸、小字「里中」の緩斜面に立地し対岸には「奥院不動堂」があり江戸時代は、旧彦根藩の領地であった。滋賀物産誌(明治13年)によれば総戸数48戸と記されている。明治16年に周辺の五ヶ村が合併し、百済寺村の大字となり、さらに明治22年の町村制施行にて周辺七ヶ村と合併し角井村の大字百済寺甲となった。山林に囲まれており、生業は炭焼きなどの山仕事で、養蚕と茶栽培が行われていた。耕地は少なく、自給のための農業を行っていた程度である。集落内には百済寺の東門の鎮守であった白髭神社、臨濟宗大慈寺があったが、双方とも集団移転時に現在地に移転された。移転後の旧地は、かつての集落を偲ばせるものは石垣のみである。



□現在の旧大萩集落の石垣



□大萩集落跡の碑

## 2) 集団移住後の大萩町の集落の変遷について。

昭和47年の台風で百済寺甲集落は土石流での甚大な影響を受け、災害激基地に指定され、大萩集落の住民は集団移住を決め、昭和50年4月に上岸本地先の大萩団地に寺院も含め移転した。旧地では、生業である炭焼きも石化燃料の普及で衰退したことも要因としては大きい。移転は住居地のみである。耕作地はない。住居地は従来、滋賀県の所有で、戦前は食料増産のための芋づくり、戦後は植林用の苗木づくりの地であった。耕地が含まれなかったのは農業用水の供給の問題もあった。旧地時代から従来の犬上川の引水(かくの井)、加流川のため池等の用水等への水争いが絶えなかったこともある。しかるに移住者の暮らしは以前とは大きく変貌し、旧地における耕作は位置的にも移動が困難であり、生産性にも問題があり県下および町で働く公務員、商店経営およびサラリーマン的な対応になった。しかし、従来の集落での伝統行事は住民の誇りとしてのアイデンティティとして受け継がれている。季節ごとの祭りが白髭神社で執り行われている。移住して五十年が経過したが、山で暮らしていたころの伝統と文化を後世に伝えていく「神主制度」なる制度が現存し、15歳ごろに神社の下働きを経験しながら順番に神主を経験していく制度、所謂輪番制で神主を廻していく制度であり、地域に根付いた生活が自然と求められる環境が生み出されている。周辺に働き口があるのもこの地に居住する大きな要因ではあるが、「神主制度」なるものも住民の定住化に大きな要因であるといえる。

## 3) 集落の中を歩いてみると。

現地調査を行った日は新年早々、春を思わせる陽気であった。集落に入ると人通りのない団地内は整然とした道路が十文字に交差するゆとりの空間が広がっていた。移住時、全戸150坪宅地を抽選で割り当てられ、村山で切り出した木材を利用し、全て同一設計での一戸建て団地としたと聞く。50年経過しているとは思えない清潔感の漂う集落である。

周辺集落とつながる車道から大萩町への出入り口には津島神社の小さな祠が置かれ、集落を守る風習が受け継がれている。白髭神社への参道や大慈寺境内も清掃が行き届いていた。

公民館横の「大萩の郷碑」には、移転に際し当時の区長が中心となり、若者離れによる集落の過疎化や生活基盤の不安が交雑していた背景や、当時の貧富に差を超えて、全戸平等の理念で新しい「大萩の郷づくり」に向かった経過が顕彰されている。集団移住に応じたのは59戸中55戸であるが、現在は一部に新たな家屋も造営されている。働き場所への交通の便の良さもあり、付近地域とは異なった新たな生活感の地域となっている。



□現在の太萩町住宅街



□現在の太萩町住宅案内板



□白髭神社の鳥居

■ 令和6年2月8日(木) 9:30-12:00 晴 参加者 7名

1, 活動先: 東近江市 鯉江町一帯

2 調査目的。

当研究会では、利水・治水事業の歴史の地域調査として、今回は、愛知川上流右岸から東部の鈴鹿山脈の西方にかけて広がっている河岸段丘を形成している地の鯉江町を調査した。

### 1) 河岸段丘の上段、下段にある田地の灌漑対策は何であったのか。

鯉江町の地形の特色は土地の高低は下位段丘の下から段丘上に広がっている。段丘崖下の田は二毛作田であり、灌漑は、「鯉江の井」を利用。段丘上部には豊富な湧水があり、一毛作田を潤していた。山林もあり、畑地として桑の栽培を主として茶、野菜類の栽培もされていた。滋賀県物産誌(明治13年)にも「土地高低ありて地味中等、稲梁に適す。水利極めて便なり。愛知川爆張の時は水害甚だしと記されている。

水利としては愛知川上流右岸から東部の鈴鹿山脈の西方にかけて段丘を形成しており、愛知川中下流沿いに低い沖積平野を下段、上流から扇状に広がる10-30メートル高くなっている地帯を上段と呼ぶ。上の段は溜池や河川(加領川、棚上川)からの送水で、下の段は「鯉江井」(新郷井)と呼ばれる井堰から水を得ていた。

### 2) 水利慣行と井堰祭りの関連について。

中世から続く共同体を象徴的に示す水利用、その水利用圏と祭礼圏が一致するのは当然と考えられ、水を紐帯とした生活の中の共同理念をまさに体現したものであつたらう。それはこの祭礼の通称名「ユキカタ祭り」にも現れている通り、この祭礼で同じ用水を利用する井郷としての繋がりを確認し合う場であつたと考えられる。春の時期に行われる鯉江郷の祭礼は中世からの社会関係を表わした組織を保持しながらも稲作の予祝儀礼という性格を含みつつ、同じ郷内での水利用を中心とした生活の協力関係を高める場であつたとも考えられる。

### 3) 両墓制について。

土葬時代にご遺体を、火葬時代になってからは遺骨を山の墓に埋葬する。お寺にある墓は石塔を建てているが地下に

は何も埋めていない。理由はよくわからないが今でもこの地では続いている風習である。

#### 4) 鯉江町の神主制度について。

愛東地域、特有であるが、鯉江町においても原則、全町内 70 戸が輪番制で神主が廻ってくる。この制度は当地特有な制度であり、町の人口減少を食い止めている大きな要因である。また、神社とは別に町内で毎年1月5日に「御家鎮(おけち)」と呼ばれる的に東の方向に弓を射る重要な神事がある。通称「けち」と呼ばれる伝統行事である。

#### 5) 集落の中を歩いてみると

県道 217 号からの坂道を上ると、集落中央部に 2010 年改築されたモダンな自治会館が迎えてくれる。自治会長に鯉江町の歴史と現状について説明していただいた。自治会館と専修院並びに隣接民家との境界に唯一残る鯉江城の土塁を見学した。雑草や雨水で流れ落ちないように防水シートで覆われている。人通りのほとんどない街中通路は狭いものの整然として、側溝は全て車の通行確保のため蓋をされて流れは確認できない。農作業用の車や生活用の乗用車の出入りに十分な道幅が確保されている。舟板壁の土蔵、愛知川河原の丸石を積み上げたと思われる家や塀の基礎垣が目についた。多くは大型の木造家屋が立ち並ぶが、一部に茅葺屋根にトタン張りの家が残し、最新式の木造建築の家も見受けられる。集落の西端にある集落排水処理場付近が鯉江城の西端とみられており、説明板と石積の記念碑が残されている。集落内や外回りの田の中に愛東名産のブドウを栽培のハウスも目についた。集落の北西側に河岸段丘上の整備された広大な田が広がっている。大半が水田耕作地とみられ雑草の生えた休耕田は見られない。最後に愛知川土手近くの河岸段丘下部の水田も確認したがここにも休耕田は見られなかった。旧愛知井(ゆ)の記念顕彰碑には、当時関わった近隣郷の名前が残されていて、小田刈、長、小池、大清水、南清水、北清水、清水中、西菩提寺、北菩提寺、南菩提寺、横溝、勝堂、苅間、畑田、平居、栗田の 16 郷が刻まれている。河岸段丘下から竹林の崖越しに見える鯉江町の集落は、鯉江城が砦として地域の繁栄を守った時代と今もほとんど変わっていないようにも思われる。愛知川河岸段丘の上下に位置するも水利に恵まれ、戸当たりの所有田地面積も広い地域である。



□上水道低位配水タンク



□河岸段丘上部に広がる田



□町中に残る鯉江城土塁跡



□愛知井由来記念碑

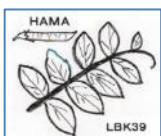


□町内舟板の蔵



□集落中央の祠

執筆者 小篠



## (25) 海浜植物守りたい

【活動報告日の活動会員数(のべ) 17名】

グループ担当職員:大槻 達郎

### 【活動報告】

\*2024年2月6日(火) 9時30分~11時00分

天気:曇り一時雨 気温:6°C(9時30分) 琵琶湖の水位:-62cm 参加者:4名

観察状況 \*今年最初の作業日。北風が吹き気温も低く曇り空、一時雨が降り寒い。

昨今の雨と雪で琵琶湖が少し水位を戻し、干潟は消えたが砂浜が1m程度広がったが、波が高く水も濁り荒れている。寒さに震えながら、又途中雨に降られたので作業を中止をした。



活動内容 \*ミーティング(今日の作業予定) \*保護区内の除草(特にツルニチニチソウ)

### 海浜植物

- \*ハマエンドウ:落ち葉にすっかり埋もれ寒さに耐えている。所々枯れた葉が目立つ。松の木で風の当たらないところは緑も濃く元気に育っている。
- \*ハマゴウ:枝も葉も枯れて枝も細い。枯れた枝も見られる。
- \*ハマヒルガオ:どこにも見当たらない。



松の木の下のハマエンドウ



北風に耐えるハマゴウ



センダンの実とハマエンドウ

\*2024年2月16日(金) 9時30分~12時00分

天候:曇り 気温:6°C(9時30分) 琵琶湖の水位:-52cm 参加者:4名

観察状況 \*青空も見られるが北風が強く吹き、体感気温も低く曇り空。

荒い波が高く水も濁り荒れている。水位も前回より高い。寒さと強い風に震えながら、波板設置を目指し頑張った。

活動内容 \*ミーティング(今日の作業予定)

- \*保護区東側に波板設置(約18m 面積 約18㎡拡張)
- \*拡張部のツルニチニチソウの根の掘り起こし除去。

### 海浜植物

- \*ハマエンドウ:落ち葉にすっかり埋もれ寒さに耐えている。今まであまり生育が良くない保護区中央あたりにも新芽が見られる。松の木で風の当たらないところは緑も濃く元気に育っている。
- \*ハマゴウ:枝も葉も枯れて枝も細い。地面がはっきり見えている。



保護区中央のハマエンドウ



ハマゴウ



保護区外西側のハマエンドウ

\*2024年3月7日(木) 9時30分~12時00分

天候:晴れ 気温:8°C(9時30分) 琵琶湖の水位:-27cm 参加者:4名

観察状況 \*北風がやや強く白波が立っていた。琵琶湖の水位はだいぶ回復していた。

山頂に雪を抱いた伊吹山や比良山など遠くの山脈がはっきり見えた。

活動内容 \*ミーティング(今日の作業予定) \*保護区拡張部の測量。

- \*杭の寸法、間隔測定
  - ・杭の寸法:長さ125cm 太さ 90φ
  - ・杭の間隔:3m~3.5m

- ・拡張部の長さ:約21m
- ・必要ロープ長:約70m
- ・必要杭の数 :7本

\*松葉回収 \*2/16 拡張部周辺の取り残し、ツルニチニチソウの根の掘り起こし除去。



## 海浜植物

- \*ハマエンドウ:今まであまり生育が良くない保護区中央あたりにも新芽が見られる。風が吹き抜ける北西部分の松葉が吹き飛ばされて新芽は見られない。
- \*ハマゴウ:枝も葉も枯れている。
- \*ハマヒルガオ:まだ芽は見つからない。



保護区中央のハマエンドウ

保護区外西側のハマエンドウ  
ハマゴウ

昨年不毛の日当たり箇所

ハマゴウは未だ枯れたまま

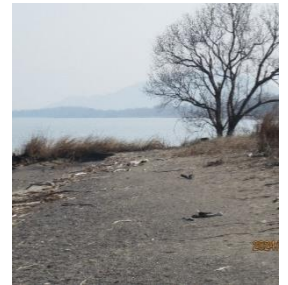
ハマエンドウの新芽が観られる。

### \*2024年3月15日(金) 9時30分~11時30分

天候:晴れ 気温:9°C(9時30分)琵琶湖の水位:-12cm 参加者:5名

**観察状況** \*太陽の日差しも暖かく春を感じられる。草も伸びてきた。波は穏やかで水位も回復してきた。対岸の山々はかすんで見えない。春を感じながらで、上着を脱ぎ気持ち良く作業が行えた。

- 活動内容** \*ミーティング(今日の作業予定) \*保護区東側に波板設置(前回の続き 約7m)  
\*ツルニチニチソウ掘り起こし除去。\*防風ネット設置場所寸法測定(保護区北側)  
保護区北側松が無い所に防風ネットを設置し、撒いた松葉が風で飛ばされないようにしたい。  
\*竹の切り出し(防風ネット支柱設置用)2m20cm×5本。\*松葉(枯れ葉)の収集。  
\*保護区内を通行しないように保護区南東部のロープ張り直し。



## 海浜植物

- \*ハマエンドウ:緑が目立ち大きくなってきた。保護区中央あたりにも小さな群集が見られる。・松の木の下の北風を受けているがハマゴウ生育の周辺・草に囲まれている周辺・チガヤに囲まれている周辺がよく育っている。
- \*ハマゴウ:枝も葉も枯れて枝も細い。地面がはっきり見えている。



保護区中央のハマエンドウ



ハマゴウ



ハマゴウ周辺のハマエンドウ



波板設置作業



波板設置作業後



枯れ松葉の収集作業

以上

### 3. はしかけさんが活躍する琵琶湖博物館イベント情報(4月～6月)

※事前申し込みが必要なイベントもございます。また、日程、内容等変更になっている場合もございますので、  
必ず事前に琵琶湖博物館ホームページで詳細をご確認ください。

タイトル	内容	期日	曜日	時間	場所	備考
ちこあそ・4月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024年 4月17日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。
里山体験教室	博物館を飛び出し、実際の里山で季節ごとの自然観察や里山遊び体験をしよう！	2024年 4月21日	日	10時00分～ 14時30分	野洲市 大篠原 地先	年間4回開催分一括申込です。1回分だけの申し込みはできません。
はしかけ登録講座(オンライン)	琵琶湖博物館のはしかけ制度の概要を説明するとともに、はしかけ各グループの活動内容を紹介します。また、はしかけ制度への入会手続きを同時に行います。	2024年 4月28日 ～ 5月12日		左記期間のうち任意の時間 (1時間30分程度)	オンライ ン	※登録にはボランティア保険料350円が必要 ※要事前申込
【わくわく探検隊】春の草花でしおりを作ろう！	屋外展示で春の草花を採取した後、ラミネーターでオリジナルのしおりを作ります。色や形、名前などについて植物博士に教えてもらいます。	2024年 5月11日	土	13時30分～ 15時00分	琵琶湖 博物館 実習室2 屋外展示	先着 雨天決行
【田んぼ体験】 田植え	生活実験工房の水田を利用して、昔ながらの農家の暮らしや生活、農作業に触れて頂くことを目的とし、その一環として、田植え作業を体験して頂きます。	2024年 5月12日	日	10時00分～	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	長靴、着替え軍手等をご用意下さい。暑さ対策をお願いいたします。 雨天中止
季節の植物でアロマ ウォーターを作ろう！	季節の植物を使って、蒸留器でハーブウォーターを抽出します。抽出液を使ってルームスプレー等を作ってみましょう。	2024年 5月14日	火	10時30分～ 11時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	生活実習工房に直接ご来場ください。
ちこあそ・5月 (ちっちゃな子どもの 自然遊び)	博物館の森や田んぼで自然遊びや、昔の暮らしの体験をしたりしながらゆっくりと過ごすちっちゃな子どもの遊び場です。	2024年 5月15日	水	10時00分～ 14時00分	琵琶湖 博物館 生活実験 工房	※事前申込みの上、10時～14時の間でご都合のよい時間帯に、生活実験工房にお越しください。

## 4. 生活実験工房からのお知らせ

今年の3月は天候が不安定で、なかなか暖かさを感じる事ができませんでしたが、そろそろ春の息吹が心地よく感じられそうですね。工房でももうすぐ田んぼの準備が始まります。

2024年度の田んぼ体験イベントの開催日程が決まりましたので、ご案内申し上げます。皆さまのご参加を心よりお待ちしております。昨年は田植えが雨天のために中止となってしまいましたが、今年はずべてのイベントが順調に進行し、より素晴らしい体験となるよう努めて参ります。

### 【活動予定】

開催時間：10:30～12:30(受付10:00～) 場所：生活実験工房  
田植え、稲刈りについては、各自、長靴、着替え等をご用意ください。

- 5月12日(日) 田植え
- 7月28日(日) 昆虫採集
- 9月8日(日) 稲刈り、はさ掛け(早稲品種)
- 10月13日(日) 稲刈り、はさ掛け(晩稲品種)
- 12月22日(日) しめ縄づくり
- 2月9日(日) わら細工

担当:交流係



春の息吹①



春の息吹②

## 5. その他の事項

### (1)はしかけグループの活動に初めて参加する場合

ニューズレター発行後、活動日・活動場所が変更になる場合があります。グループの活動に初めて参加する時は、事前に各はしかけグループの担当者に確認をお願いします。メールの場合はグループ代表アドレスまでご連絡ください。なお、グループ代表アドレスは事務局(hashi-adm@biwahaku.jp)までお問合せください。

### (2)名札(会員証)の写真について

名札(会員証)の写真を更新されたい方は、はしかけ制度担当者 hashi-adm@biwahaku.jp まで送って下さい。ただし、必ず本人確認ができるものに限りです。

### (3)はしかけ会員証の携帯のお願い

はしかけ活動で来館する場合は、会員証を必ず持参してください。会員証を携帯せずに活動することは、原則的にできません。

### (4)はしかけ活動中に事故が起こったら

はしかけ会員は、ボランティア保険に加入する必要があります。加入時に、ボランティア保険加入カードが各自に配布されますので、活動中に事故などが発生した場合には、加入者カードに書いてある連絡先(社会福祉法人 滋賀県社会福祉協議会 TEL: 077-567-3920 FAX: 077-567-3923)へ、速やかに連絡してください(各人で連絡)。

なお、手続きには、グループ担当者(学芸員)の活動証明が必要ですから連絡してください。

詳しくは、最新年度の「ボランティア保険」パンフレットをご覧ください。「ボランティア保険」のパンフレットは、はしかけ事務局(博物館事務学芸室)にも置いています。